

付録 * 「江戸の人口について」 *

徳川家康が江戸入りした天正 18 年（1590）当時の江戸は、「ここもかしこも汐入の茅原」（大道寺友山『岩淵夜話別集』）で、城下には「茅ぶきの家百ばかりも有かなし」（石川正西『聞見集』）であったと伝えられている。

江戸入りの直後から、物資搬入のため船入堀（道三堀）の開削を手始めに、城下町の建設が進んだ。また、慶長 8 年（1603）家康が征夷大將軍に就任し、江戸に幕府を開いた後には、諸大名の普請役で、天下の総城下町づくりが始まった。

こうして、家臣団、諸大名、商工業者等が移り住み、また、参勤交代も慶長年間に始まり、江戸の人口は急速に増加した。家康の江戸入りから 19 年後の慶長 14 年（1609）に、江戸を訪問したフィリピン臨時総督ロドリゴ・デ・ビベロ（スペイン人）は、江戸の人口を 15 万人と記録している（ロドリゴ・デ・ビベロ『日本見聞記』）。

その後、参勤交代は、寛永 12 年（1635）に初めて明文化され、外様大名は 1 年おきに江戸に居住する（その妻子は常住）こととなり、続いて寛永 19 年（1642）には譜代大名も参勤交代を命じられ、江戸の人口集中や都市的な発展の契機となった。

さらに、明暦 3 年（1657）の大火を契機に、隅田川を越えて、本所・深川が開発されるなど、江戸の拡大が進んだ。江戸入りから約 90 年後の延宝 7 年（1679）には、町奉行支配の町数は 808 町に達したと伝えられ（伝林鷲峯『玉露叢』）この延宝期（1673-1681）に、ほぼ江戸の原型ができあがったとされる。なお、江戸八百八町とは、実際の町数ではなく、一種の慣用表現と考えられている。実際の町数は、寛文 2 年（1662）に 674 町、正徳 3 年（1713）に 933 町あった。

享保 6 年（1721）吉宗が人別帳の作成を命じ、幕府による正式な人口調査が開始された。当初は、町奉行支配下の町人（15 歳以上）だけが調査の対象であったが、天保 14 年（1843）からは寺社門前町人や出稼人も対象となった。この調査による人口を、幸田成友氏が作成した表でみると、享保 6 年（1721）に 501,394 人（町方支配場町人のみの人口）、天保 14 年（1843）に 587,458 人（町方並寺社門前町人に出稼人を加えた人口）であった（下表参照）。

これらの人口は、町人以外の人口、例えば、武士、公家等は除かれており、また、調査の範囲は町奉行の管轄である墨引内にとどまり、江戸の範囲（いわゆる御府内）とされる朱引内であっても、墨引外の（町奉行の管轄が及ばない）地域における人口も含まれない。つまり、江戸全体の総人口は記録されていないのである。

この記録された町人人口の推移をみると、享保年間から幕末まで、総数は大きく変動していないが、女子の割合は次第に増え、幕末には男子とほぼ同数に達した。これは、江戸へ移住した者が一家を成し、郷里から母や妻を呼びよせたり、妻帯したりする機会が多くなったこと等が一因と考えられている。

また、江戸へは全国から人々が流れ込んできたことから、荻生徂徠は「江戸は諸国の掃き溜め」(荻生徂徠『政談』)と称した。そこで、下表で、町人の出生地をみると、天保14年(1843)の時点で、町方支配場町人と寺社門前町人の合計553,257人のうち、他所出生の者は165,072人であり、29.8%を占めた。また、出稼人も、同じ天保14年(1843)に、町人合計587,458人のうち34,201人と、5.8%を占めた(下表参照)。

なお、江戸100万都市と称されるが、これは、記録に残っていない武家人口等を含めた江戸全体の総人口を推計した数値である。また、1800年当時の諸都市の人口は、ロンドン86万人、北京90万人、上海5万人、パリ54万人、ニューヨーク6万人と推定されている。

表 江戸町人人口

調査年月	町方並寺社門前町人	町方支配場町人	寺社門前町人	出稼人
享保6年11月 (1721)	501,394 (うち女子 178,109) 女子の割合 35.5%	501,394 (女子 178,109)	-	-
享保18年9月 (1733)	536,380 (うち女子 196,103) 女子の割合 36.6%	475,521 (女子 171,563)	60,859 (女子 24,540)	-
天保14年7月 (1843)	553,257 (うち女子 260,905) 女子の割合 47.2%) (うち他所出生 165,072) 他所出生の割合 29.8%)	479,103 (女子 225,283)	74,154 (女子 35,622)	34,201 (女子 8,353)
慶應3年9月 (1867)	538,463 (うち女子 268,561) 女子の割合 49.9%) (うち他所出生 116,926) 他所出生の割合 21.7%)	-	-	4,616 (女子 1,019)

資料)幸田成友「江戸の町人の人口」(中央公論社刊「幸田成友著作集第2巻」)における「江戸町人人口表」をもとに作成した。

参考資料：東京都「東京百年史」、「東京市史稿 市街篇第貳」、「東京市史稿 産業篇第七」、東京都江戸東京博物館編「江戸東京博物館シンポジウム報告書2 江戸東京における首都機能の集中」所収の近松鴻二「参勤交代制度と人口の集中」、加藤祐三「首都と近代の都市化」、東京都公文書館「研究紀要第4号」所収の「江戸の範囲」、幸田成友「江戸の町人の人口」(中央公論社刊「幸田成友著作集第2巻」)

